

平成26年度 第5次鯖江市総合計画推進にかかる施策方針

第5次鯖江市総合計画の着実な推進を目的として、平成26年4月に策定した施策方針の取組結果について、次のとおり報告します。

平成27年3月

産業環境部長 中村 修一

1 総括

- 1 眼鏡、繊維、漆器の地場産業を中心に作る産地から作って売る産地への転換を図るとともに、関係機関と連携した創業支援への取り組みや融資制度の拡充等により、企業の活力向上に努めました。また、伝統工芸5産地が集積する地域として、県事業を活用した後継者育成にも取り組みました。
- 2 中心市街地の活性化に向け、国や県の支援事業も活用しながら、鯖江商工会議所、(一社)鯖江観光協会、商店街、学生等と連携・協働して「鯖江街なか賑わいプラン」事業を推進しました。また、商業者へのヒアリング調査や商店街関係者との協議を通じ、個店の魅力作りを軸とした活性化策に取り組みました。
- 3 (一社)鯖江観光協会と連携し、西山公園を核としたイベントや、街なか、めがねミュージアム、うるしの里会館等への誘客を図りました。また、観光公式サイト「さばかん」を随時更新し観光資源のPRに努めました。
- 4 福井県、JAたんなん等と連携し、基幹作物である米を中心に、特産化を進める「さばえ菜花米」「吉川ナス」「さばえ夢てまり」冬野菜としての「さばえ菜花」等ブランド化を進める農産物の生産振興に努めました。また、鯖江市園芸振興プランに基づき、ブロッコリーやミディトマトの生産を振興し、農業経営の複合化を推進しました。さらに、鯖江産農産物での新たな加工品や山うに、桑茶などの開発を支援しました。
- 5 「人・農地プラン」に位置づけられた地域農業の担い手に福井県農地中間管理機構を通して農地の集積を推進し、経営基盤の強化を図るとともに、農業経営改善や新規就農を目的にした研修会を開催し、担い手の育成に努めました。
- 6 「元気さばえ食育推進プラン」に基づき、学校給食畑を活用した地場産野菜の供給や農作業体験を通して、子供たちの食農教育に取り組みました。また、学校給食での地場産食材使用率向上に取り組むとともに、市民ぐるみの食育イベントの開催を通じて、地産地消を啓発・推進しました。
- 7 「人と生きもののふるさとづくりマスタープラン」に基づき、獣害対策リーダーの育成や市民主役で取り組む地域ぐるみの鳥獣被害対策を推進しました。また、山ぎわの農地、農作物への被害防止、地域住民の安全安心を確保するために、緩衝帯や電気柵等の保全、隠れ家となる山ぎわ等の整備および効果的な捕獲に努めました。
- 8 古紙類・空き缶の集団回収の奨励やダンボールコンポストの普及促進、使用済小型家電品のリサイクル等に努め、ごみ排出量の削減に取り組みました。また、中長期的に、総合的な視点に立って取り組むために、「一般廃棄物処理計画」を策定しました。

- 9 希少動物の保護、湧水などの地域にある環境資源の保全および地域活動による環境まちづくりを目的に、許佐羅江清水に「トミヨ」を復活させるための環境整備に取り組みました。また、市内の河川流域等において、地域住民や環境団体、市が連携、協働して、自然保護や清掃活動による環境美化に取り組みました。
- 10 「鯖江市地球温暖化対策地域推進計画」および「鯖江市役所地球温暖化対策実行計画」を推進するため、率先して節電や省エネ活動、省エネ設備の導入に取り組みました。また、家庭での太陽光発電などの再生可能エネルギーの利活用を推進することにより、家庭における日常の省エネ活動を推進し、温室効果ガスの排出抑制を図りました。
- 11 環境教育支援センターを拠点として、身近な生活環境から地球規模の環境問題について、各種環境学習会等を開催するとともに、環境フェアや大谷公園植樹、こどもエコクラブ活動交流会等を通じて、環境に配慮して行動する市民「環境市民」の育成に取り組みました。

2 課題

- 1 三大地場産業の継続的発展と若者の雇用促進を図るため、リーダー企業を中心に、次世代産業として期待される「メディカル」・「ウェアラブル端末関連」分野への進出を促すとともに、産地内連携や、新製品・新技術開発や販路開拓への支援を強化することが必要です。また、「SBW」等の若手経営者を中心にものづくりにおける「鯖江ブランド」の推進と効果的な情報発信力の充実強化が不可欠です。また、伝統工芸をはじめ、各産業に不可欠な要素技術の継承は、地場産業存続の要であり、後継者の確保・育成に、業界団体等と一体となって、取り組む必要があります。
- 2 市街地活性化推進の指針とする「鯖江街なか賑わいプラン」や県の「おもてなし商業エリア創出事業」が平成27年度最終年度を迎えるにあたり、鯖江商工会議所、鯖江観光協会、商店街等の関係者を交えて、今後の中心市街地活性化についてソフト事業のあり方や再整備計画等について、地方創生における位置づけも踏まえながら検討する必要があります。また、西山公園来訪者を街なかに誘導し、賑わいを創出するため、西山公園と街なかを一体化する「パークシティ構想」に関係部署と共同で取り組む必要があります。
- 3 さばえ菜花米を始めとする主食用米、非主食用米、麦、大豆など消費者ニーズに応じた魅力ある産地づくりと新たな販路の開拓、ならびに農業従事者の高齢化と後継者不足に対応し、本市農業を持続的に発展させるために、農地の集積による経営の効率化、新規就農者の育成、確保が必要となります。また、農業の多角化・複合化による経営の安定を図るため、鯖江市園芸振興プランに基づき、収益性の高いブロッコリー、ミディトマト、軟弱野菜など主要な園芸作物と合わせてマルセイユメロン、吉川ナス、冬野菜さばえ菜花などブランド農産物の振興が必要となります。あわせて、指針となる「鯖江市農業・林業・農村ビジョン」の見直しも求められます。
- 4 環境保全については、自らが主体となって、地域における外来生物の防除と在来生物の生態系の保全や空き缶ポイ捨て防止、不法投棄防止、ペットのふん放置防止等の具体的なまち美化活動に取り組む環境市民の育成を強化するとともに、家庭での太陽光発電などの再生可能エネルギーの利活用、省エネ活動に取り組む必要があります。
- 5 1人1日あたりのごみの排出量は、減少傾向にあります。平成28年度目標の900g達成にはさらに45gの削減が必要です。ダンボールコンポストによる生ごみ堆肥化の普及促進や食べきり運動の推進、生ごみの水切り、新聞紙等の古紙類・空き缶の集団回収に対する奨励金の活用拡大等により、ごみの排出量削減や資源化率の向上に取り組むとともに、ごみ袋の有料化に向けた検討も必要となります。


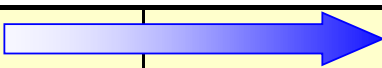
3 重点的に進める項目の取組結果

<取組項目>	<取組結果>
<p>1-1. 「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換</p> <p>鯖江商工会議所と連携し、市内中小企業が行う新製品・新技術開発や異分野・異業種への進出を推進します。また、企業が行うひとつづくり事業、市場開拓事業等への助成事業を通じて頑張る企業を応援することで、鯖江ブランドづくりに努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 鯖江の頑張るリーダー企業応援事業・新製品新技術開発等の補助採択件数 30件 ◆ 【新】「めがねのまち鯖江」元気再生事業による鯖江ブランドとしての製品試作 5件 ◆ デザインカ・マーケティング力向上のためのセミナー等の開催 10回 ◆ 市内製品の首都圏でのPR事業への参加企業数(mono v a・2k 540等) 延10社 ◆ さばえものづくり博覧会における出展事業所数 200社 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>鯖江商工会議所と連携し、産地で培われた高度な技術を活かし、次世代産業としての期待される分野を中心として市内中小企業が行う新製品・新技術開発や異分野・異業種への進出を支援しました。また、企業が行うひとつづくり事業、市場開拓事業等への助成事業を通じて頑張る企業を応援することで、鯖江ブランドづくりに努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 鯖江の頑張るリーダー企業応援事業・新製品新技術開発等の補助採択件数 63件 [A] ◆ 【新】「めがねのまち鯖江」元気再生事業による鯖江ブランドとしての製品試作 5件 [A] ◆ デザインカ・マーケティング力向上のためのセミナー等の開催 10回 [A] ◆ 市内製品の首都圏でのPR事業への参加企業数(mono v a・2k 540等) 延17社 [A] ◆ さばえものづくり博覧会における出展事業所数 183社 [B]
<p>1-2. 企業の活力向上</p> <p>企業誘致や市内企業のニーズを踏まえた活性化策に取り組むことで、新たなビジネスチャンスの創出やネットワークづくりに努め、さらに創業支援事業計画に基づき、民間のノウハウを活用し地場産業の技術を活かした創業支援(創業・第2創業)を行います。また、ワーク・ライフ・バランスを推進し職場環境の整備を促すことで、従業員のモチベーションの向上、有能な人材の継続雇用による企業の経営向上を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 企業のネットワークづくり(産学官連携：企業と大学の交流事業実施) 3月 ◆ 【新】ものづくり鯖江未来創造会議の設置 3月 ◆ 【新】創業支援連携協議会・運営委員会等の開催(金融懇話会含む) 5回 ◆ 企業・事業者等への訪問調査 延120件 ◆ 企業向け支援施策・情報発信(広報さばえ、ホームページ、一斉メール等) 25件 ◆ ワーク・ライフ・バランス推進事業の啓発(アンケート調査・イベントでの企業向けブース設置) 2件 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>企業誘致や市内企業のニーズを踏まえた活性化策に取り組むことで、新たなビジネスチャンスの創出やネットワークづくりに努め、さらに創業支援事業計画に基づき、民間のノウハウを活用し地場産業の技術を活かした創業支援を行いました。また、ワーク・ライフ・バランスを推進し職場環境の整備を促すことで、従業員のモチベーションの向上、有能な人材の継続雇用による企業の経営向上を目指しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 企業のネットワークづくり(産学官連携：企業と大学の交流事業実施) 11月 [A] ◆ 【新】ものづくり鯖江未来創造会議の設置 8月 [A] ◆ 【新】創業支援連携協議会・運営委員会等の開催(金融懇話会含む) 8回 [A] ◆ 企業・事業者等への訪問調査 延120件 [A] ◆ 企業向け支援施策・情報発信(広報さばえ、ホームページ、一斉メール等) 100件 [A] ◆ ワーク・ライフ・バランス推進事業の啓発(アンケート調査・イベントでの企業向けブース設置) 3件 [A]
<p>1-3. 業界団体との連携による事業の推進</p> <p>地場産業団体が行う、産地の存続発展や活性化を目指す先見性のあるものづくり事業や市場開拓事業および時代に適応したグローバル化への対応や消費者との交流活発化などを推進する事業を支援することを通じ、地場産業の振興に努めます。また、鯖江商工会議所や業界団体と情報共有し、効率的な施策の推進に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ さばえ商工振興戦略会議の開催 4回 ◆ ものづくり振興交付金事業にかかる連携調整会議の開催(3団体) 6回 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>地場産業団体が行う、産地の存続発展や活性化を目指す先見性のあるものづくり事業や市場開拓事業および時代に適応したグローバル化への対応や消費者との交流活発化などを推進する事業を支援することを通じ、地場産業の振興に努めました。また、鯖江商工会議所や業界団体と情報共有し、効率的な施策の推進に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ さばえ商工振興戦略会議の開催 4回 [A] ◆ ものづくり振興交付金事業にかかる連携調整会議の開催(3団体) 6回 [A]

<取組項目>	<取組結果>
<p>2. 中心市街地の活性化</p> <p>商工会議所、地元住民、学生、商店街などと連携・協働して「賑わい」「憩い」「癒し」にあふれるまちづくりを推進することで、個性と特徴のあるまちづくりに努めます。</p> <p>◆ 賑わいプラン事業実施数 19事業 ◆ おもてなし商業エリア創出事業実施数 8事業 ◆ 【新】若手商店経営者が自らが提案し、取り組む活性化事業の具現化 2事業</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>県の「おもてなし商業エリア創出事業」や国の「地域商店街活性化事業」を活用し若手商店経営者が発案、企画したダンスコンテストやこども商店街を開催するとともに、商工会議所、地域商店街と今後の活性化施策について協議・検討を重ね、個店の魅力向上に努める事業に取り組みました。また、商工会議所、地元住民、学生、商店街などと連携・協働して「鯖江街なか賑わいプラン」事業を継続的に取り組むことで、個性と特徴のあるまちづくりに努めました。</p> <p>◆ 賑わいプラン事業実施数 19事業 [A] ◆ おもてなし商業エリア創出事業実施数 8事業 [A] ◆ 【新】若手商店経営者が自らが提案し、取り組む活性化事業の具現化 2事業 [A]</p>
<p>3. 通年型観光・産業観光・広域観光の推進</p> <p>(一社)鯖江観光協会と連携して、道の駅「西山公園」を通年型の観光地および街なかへの誘導拠点とするとともに、広域連携のもと、めがねミュージアムやうるしの里会館、石田縞手織りセンターを活用した産業観光の振興を図ります。また、観光情報発信の充実を図ることにより、観光資源のさらなるPRに努めます。</p> <p>◆ 【新】道の駅「西山公園」来館者数 25万人 ◆ めがねミュージアム、うるしの里会館、石田縞手織りセンター来館者数 19万人 ◆ 観光専用サイト「さばかん」の年間閲覧ページ数 40万件 ◆ 県外に向けての観光PR件数 10件</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>道の駅「西山公園」を誘導拠点とし、つつじまつりでの西山公園、街なか、めがねミュージアム、うるしの里会館を巡回するシャトルバスを運行やものづくり博覧会開催やもみじまつりでの街なかツアーなど通して街なかや産業観光施設への誘客を図った。また「さばかん」の内容を随時更新し観光資源のPRに努めた。</p> <p>◆ 【新】道の駅「西山公園」来館者数 52万人 [A] ◆ めがねミュージアム、うるしの里会館、石田縞手織りセンター来館者数 20万人 [A] ◆ 観光専用サイト「さばかん」の年間閲覧ページ数 57万件 [A] ◆ 県外に向けての観光PR件数 10件 [A]</p>
<p>4-1. おいしい鯖江米の生産体制の確立</p> <p>おいしい鯖江米のフラッグシップとしてブランド化を目指している「さばえ菜花米」の栽培面積の確保と外観品質および食味値の向上に向けた取り組み、また農薬、化学肥料の使用を減らす特別栽培米やエコファーマーの推進、食味アップに向けた土づくりの普及啓発により、おいしい鯖江米の生産拠点づくりへの支援を行います。</p> <p>◆ 次年度のさばえ菜花米作付け面積 25ha ◆ おいしいさばえ米生産者への情報提供等の支援回数 7回 ◆ エコ農業の推進特別栽培米の取組認定農家数 40人 ・ 特別栽培米の作付面積 80ha</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>「さばえ菜花米」の栽培面積の拡大と品質および食味値の向上に向け取り組みました。また、JAたんなん、県と協力し生産者に栽培についての情報提供を行い、消費者が望む安全安心な地場産農産物の生産に努めました。</p> <p>◆ 次年度のさばえ菜花米作付け面積 30.9ha [A] ◆ おいしいさばえ米生産者への情報提供等の支援回数 8回 [A] ◆ エコ農業の推進特別栽培米の取組認定農家数 43人 [A] ・ 特別栽培米の作付面積 88ha [A]</p>

<取組項目>	<取組結果>
<p>4-2. 新たな水田農業政策への対応</p> <p>国の経営所得安定対策と水田フル活用の見直し、米政策の改革に対応するため、主食用米偏重ではなく、加工用米、飼料用米など非主食用米等の需要のある農作物の生産への支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大麦（H27年産）の播種面積 300ha ◆ 非主食用米の作付け面積 125ha (加工用米・飼料用米・米粉用米等) ◆ 【新】次期「農業・林業・農村ビジョン」策定委員会の設置 3月 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>鯖江市農業再生協議会を中心に、需要に合った農作物の生産を振興し、食料自給率の向上のため、加工米等の非主食用米に生産をシフトさせるなど水田のフル活用を推進しました。また、新たな「農業・林業・農村ビジョン」の改定に着手しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大麦（H27年産）の播種面積 300ha [A] ◆ 非主食用米の作付け面積 178ha [A] (加工用米・飼料用米・米粉用米等) ◆ 【新】次期「農業・林業・農村ビジョン」策定委員会の設置 2月 [A]
<p>4-3. 園芸振興プランの推進</p> <p>計画的で安定的な園芸作物栽培と出荷流通体制を目指した産地づくりを目指し、収益性の高い作物の生産振興、園芸農家の育成・確保および特産農産物のブランド化への支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新規園芸ハウスの設置棟数 10棟 ◆ 園芸施設等機能リフレッシュ支援事業設置棟数 10棟 ◆ 【新】園芸振興モデル実践農家数 2人 ◆ ミディトマト、マルセイユメロン、ブロッコリー、軟弱野菜の販売額 2,200万円 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>平成25年度に策定した園芸振興プランを着実に推進し、モデル農家を増やし園芸作物では本市特産物を代表するブロッコリー、マルセイユメロン、ミディトマト等、良質な農産物の生産量を増やすべく出荷に対し助成し、消費者が望む安全安心な地場産農産物の生産に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新規園芸ハウスの設置棟数 8棟 [B] ◆ 園芸施設等機能リフレッシュ支援事業設置棟数 2棟 [C] ◆ 【新】園芸振興モデル実践農家数 3人 [A] ◆ ミディトマト、マルセイユメロン、ブロッコリー、軟弱野菜の販売額 2,658万円 [A]
<p>5. 地域農業の担い手の育成と農用地の保全</p> <p>農地中間管理機構を活用した、農地の有効利用の継続や農業経営の効率化を進める担い手への農地の集積、集約化への支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新たに農業生産法人化に向けた説明集落数 3集落 ◆ 農用地利用権設定率 37% ◆ 人・農地プランの見直しに向けた説明集落数 89集落 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>各地区農家組合協議会等で、農地中間管理事業、人・農地プランの見直しについて説明するとともに、全農家にパンフレットを送付し、高齢化に伴う担い手農業者の減少に対応するために、担い手農家への農地集積を推進しました。また、農業経営改善や新規就農を目的とした研修会の開催、農業生産組織の法人化についての説明など、多様な農業の担い手確保・維持に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新たに農業生産法人化に向けた説明集落数 3集落 [A] ◆ 農用地利用権設定率 37.53% [A] ◆ 人・農地プランの見直しに向けた説明集落数 89集落 [A] ※中間管理事業と合わせて説明
<p>6-1. 食育と地産地消の推進</p> <p>消費者ニーズにあった安全・安心な地元産農産物の地産地消や生産者と消費者の交流等を通じた「食育」を推進します。また、学校給食畑を通じた児童の食農教育を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 食育イベント（4事業）の来場者数 13,000人 ・食育フェア（2,100人） ・食でつながるみんなの鯖江（650人） ・ふるさとの日ふるさと料理を楽しむ会（250人） ・さばえ菜花まつり（10,000人） ◆ 学校給食の食育月間（6・11月）における市内産食材平均利用率 30% ◆ 学校給食畑における食農体験の回数 100回 ◆ 【新】次期「食育推進計画」策定委員会の設置 3月 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>「元気さばえ食育推進プラン」に基づく、学校給食畑を活用した地場産野菜の供給や農作業体験を通じた農家との触れ合いにより、子供たちの食農教育を推進しました。第3回食でつながるみんなのさばえを開催し、市民自らが食育を伝え、学ぶことで市民を主役とした関係機関、団体の連携を図りました。また、学校給食地場食材利用拡大モデル事業により学校給食への市内産農産物活用を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 食育イベント（4事業）の来場者数 13,950人 [A] ・食育フェア（2,150人） ・食でつながるみんなの鯖江（500人） ・ふるさとの日ふるさと料理を楽しむ会（300人） ・さばえ菜花まつり（11,000人） ◆ 学校給食の食育月間（6・11月）における市内産食材平均利用率 28.9% [A] ◆ 学校給食畑における食農体験の回数 216回 [A] ◆ 【新】次期「食育推進計画」策定委員会の設置 3月 [A]

<取組項目>	<取組結果>
<p>6-2. 農業の6次産業化の推進</p> <p>農家自らが生産した農産物の加工、販売や専門とする商工業者等による6次産業化を促進し、鯖江ならではの商品開発などにチャレンジする農家や事業者の育成を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 6次産業化チャレンジビジネス支援事業の利用者数 10人 ◆ さばえ菜花米、イチゴ、吉川ナスなどのマッチング情報交換会の開催回数 3回 ◆ 桑を用いた新たな加工品開発 1品 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>農業の6次産業化などによる鯖江ならではの商品開発にチャレンジする農家や事業者を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 6次産業化チャレンジビジネス支援事業の利用者数 6人 [C] ◆ さばえ菜花米、イチゴ、吉川ナスなどのマッチング情報交換会の開催回数 3回 [A] ◆ 桑を用いた新たな加工品開発 1品 [A]
<p>7. 鳥獣被害対策の強化</p> <p>鳥獣害のない里づくり推進センターの創設による被害対策の啓発、取組情報の発信、地域でのリーダー育成、生育調査等のソフト対策と山ぎわに整備されている緩衝帯、電気柵の維持補修、捕獲による適正な個体数管理等のハード対策の両輪により、地域住民の安全・安心の確保、山ぎわ農地の保全および農産物の被害防止に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 鳥獣被害対策に関する情報交換会の開催 1回 ◆ 鳥獣被害対策リーダー育成講座「さばえのけものアカデミー」参加者 50人 ◆ アライグマ捕獲従事者講習会の参加者数 50人 ◆ 【新】森林空間いきもの調査による市民参加のシカの糞塊密度調査ルート数 2ルート ◆ 山際電気柵の設置支援集落数 2集落 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>鯖江市鳥獣害防止計画に基づき、イノシシ、アライグマ、ハクビシン、サル等の有害駆除の実施、緩衝帯整備、山ぎわ集落へ出向き情報提供と学習会を開催するなど、総合的な被害防止対策を行いました。</p> <p>「人と生きもののふるさとづくりマスタープラン」に基づき、地域の獣害対策リーダー育成に向けてさばえのけものアカデミー（計7回）を開催し、78名の方が受講しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 鳥獣被害対策に関する情報交換会の開催 2回 [A] ◆ 鳥獣被害対策リーダー育成講座「さばえのけものアカデミー」参加者 78人 [A] ◆ アライグマ捕獲従事者講習会の参加者数 52人 [A] ◆ 【新】森林空間いきもの調査による市民参加のシカの糞塊密度調査ルート数 2ルート [A] ◆ 山際電気柵の設置支援集落数 2集落 [A]
<p>8. 市民人1日当たりのごみ排出量削減</p> <p>環境基本計画の目標達成に向けて、「ごみ処理基本計画」を策定し、分別啓発による3R（排出抑制、再利用、再生利用）の徹底に努めるとともに、食べきり運動の推進やダンボールコンポストを利用した生ごみ堆肥化によるごみの減量化および古紙類の集団回収や小型廃家電類の拠点回収による資源化を促進し、ごみの更なる減量化・資源化と適正処理に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 1人1日当たりのごみ排出量 965g(対前年比△14g) ◆ 【新】ごみ処理基本計画の策定 3月 ◆ 資源物ステーションにおけるごみの適正分別現地啓発(スプレー缶穴あけ) 8月 ◆ 有価資源回収量(紙類、空き缶の集団回収および小型廃家電製品回収量の合計) 180t 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>ごみの排出量削減、資源化率の向上について、中長期的に、総合的な視点に立って取り組むために、「一般廃棄物処理計画」を策定しました。また、古紙類・空き缶の集団回収の奨励や家庭で身近に取り組めるダンボールコンポストを使った生ごみの堆肥化のほか、ごみ排出抑制のための、食べきり運動推進協議会による活動を推進するとともに、使用済小型家電製品の拠点回収を実施し、排出抑制・再生利用・再利用の3Rに努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 1人1日当たりのごみ排出量 945g(対前年比△23g) [A] ◆ 【新】ごみ処理基本計画の策定 2月 [A] ◆ 資源物ステーションにおけるごみの適正分別現地啓発(スプレー缶穴あけ) 6月 [A] ◆ 有価資源回収量(紙類、空き缶の集団回収および小型廃家電製品回収量の合計) 207t [A]

<取組項目> 	<取組結果> 
<p>9. 環境美化と自然保護活動の推進</p> <p>希少な動植物や湧水、河川などの地域の環境資源について、生物多様性の保全に配慮しつつ、地域特性や環境資源の特徴を活かした環境保全を目指して、地域住民や環境団体と市が連携して一体的に自然保護活動を展開することで、地域の歴史文化や環境資源の特色を活かした自然環境の保全と環境まちづくりに努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 河川清掃ボランティア活動の参加者数 8,200人 ◆ トミヨが棲める湧水の里復活 P Jワーキング会議の開催 2回 ◆ 【新】「ふくいのおいしい水」認定5清水の紹介マップ作成 3月 ◆ 【新】特定外来植物の駆除活動（モデル事業）実施 1回 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>ふくいのおいしい水に認定された桃源清水他4清水の水質保全に努めるとともに、許佐羅江清水とトミヨ復活のための環境整備について、地元住民と協議しました。また、市内流域の河川などにおいて、地域住民や環境団体、市との連携・協働による自然保護や清掃活動による環境美化を推進し、地域における環境保全活動の活性化を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 河川清掃ボランティア活動の参加者数 8,900人[A] ◆ トミヨが棲める湧水の里復活 P Jワーキング会議（地元協議）の開催 9回[A] ◆ 【新】「ふくいのおいしい水」認定5清水の紹介マップ作成 1月[A] ◆ 【新】特定外来植物の駆除活動（モデル事業）実施 -[C] （河和田川、鞍谷川、浅水川河川敷の分布状況を調査。平成27年度より駆除活動を実施。）
<p>10. 省エネ・地球温暖化防止対策の推進</p> <p>「鯖江市役所地球温暖化対策実行計画」および「鯖江市地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、市が率先して節電や省エネ活動を実践するとともに、家庭における日常の省エネ活動を効果的に進めるため、環境団体との連携による省エネ活動世帯の普及促進によるエネルギー使用量の削減や太陽光発電などの再生可能エネルギーの利活用を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 省エネチャレンジファミリー登録世帯数（累計） 1,000世帯 ◆ 住宅用太陽光発電設備設置補助件数 100件 ◆ グリーンカーテンによる省エネ活動取り組み事業所数 25事業所 ◆ 市役所のエネルギー使用量（重油換算）の削減量 251kl (H21年度比 Δ4%) 	<p>【成果等】 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>「鯖江市役所地球温暖化対策実行計画」および「鯖江市地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、市が率先して、クールビズやウォームビズによる節電などの職員の省エネ活動をはじめ、LED道路照明や公園灯等の維持補修や施設設備の省エネ機器への更新、省エネ効果の把握を行い、温室効果ガスの削減に努めました。また、家庭での太陽光発電などの再生可能エネルギーの利活用を推進するとともに、NPO団体と連携して、省エネチャレンジファミリーを登録し、家庭における日常の省エネ活動の推進に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 省エネチャレンジファミリー登録世帯数（累計） 1,250世帯[A] ◆ 住宅用太陽光発電設備設置補助件数 69件[C] ◆ グリーンカーテンによる省エネ活動取り組み事業所数 17事業所[C] ◆ 市役所のエネルギー使用量（重油換算）の削減量 729kl (H21年度比 Δ12%) [A]
<p>11. 環境学習の充実と環境市民の育成</p> <p>環境教育支援センターを拠点として、地球温暖化防止や資源循環などの多種多様な環境講座をはじめ、どんぐりからの森づくりや自然体験活動などの事業や市民、市民団体、市の連携による環境フェアなどのイベント事業などを展開し、自らが環境に配慮して行動する「環境市民」の育成に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 環境教育支援センター来館者（利用者）数 12,000人 ◆ 環境講座等参加者数 8,000人 ◆ 環境フェア出展ブース数 60ブース ◆ こどもエコクラブ登録数 20クラブ ◆ こどもエコクラブ活動交流会参加児童数 220人 ◆ 実のなる公園植樹（全小学校植樹）苗木 1,500本 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>子どもから大人まで全ての世代の環境保全意識の高揚を図るため、環境教育支援センターを拠点として、地球温暖化の防止、ゴミの減量化、資源化を中心とした環境学習講座やイベントを実施しました。環境フェア2,800人、こどもエコクラブ活動交流会350人（ボランティア含む）、実のなる公園植樹には市民110人および市内6年生児童580人が参加して事業を実施し、環境市民の育成に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 環境教育支援センター来館者（利用者）数 14,500人[A] ◆ 環境講座等参加者数 8,000人[A] ◆ 環境フェア出展ブース数 65ブース[A] ◆ こどもエコクラブ登録数 25クラブ[A] ◆ こどもエコクラブ活動交流会参加児童数 188人[B] ◆ 実のなる公園植樹（全小学校植樹）苗木 2,260本[A]